

エコアクション21 環境活動レポート2025



実施期間
令和6年2月～令和7年1月

 建装設備北海道株式会社

承認	審査	作成
佐々木	渡邊	長石

目次

1. 事業活動の内容
 1. 事業所名及び代表者氏名
 2. 所在地
 3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 4. 事業内容
 5. 事業規模
 6. 組織図
 7. 認証・登録範囲
 8. 環境活動の対象期間及び発行日

2. 環境方針

- 3-1. 環境目標
- 3-2. 環境目標とその実績
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 水使用量（排出量）の削減
 - (3) 産業廃棄物排出量の削減
 - (4) 環境配慮工事の提案

4. 取組結果についての評価、次年度の取組内容

5. 地域環境活動

6. 今後3年間の目標

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

8. 代表者による見直しと指示

1. 事業活動の内容

1. 事業所名及び代表者氏名

建装設備北海道株式会社 代表取締役社長 佐々木 克明

2. 所在地

本 社 〒003-0811 札幌市白石区菊水上町1条4丁目1番地21
会社倉庫 〒003-0811 札幌市白石区菊水上町1条4丁目202番地

3. 環境管理責任者氏名

責任者 渡邊 哲也

連絡先 TEL : 011-814-9701 FAX : 011-814-9707

E-mail info@kns-setsubi.co.jp

4. 事業内容

空調・冷暖房・給排水衛生、各種プラント設備工事、一般建築工事（防水・内装仕上・塗装・板金・大工・土木・舗装）

5. 事業規模

資本金 7,000万円

従業員 42名（令和7年7月現在）

売上高 令和6年度・・・1,601百万円

床面積 本 社 418㎡

会 社 倉 庫 163㎡

7. 認証・登録範囲

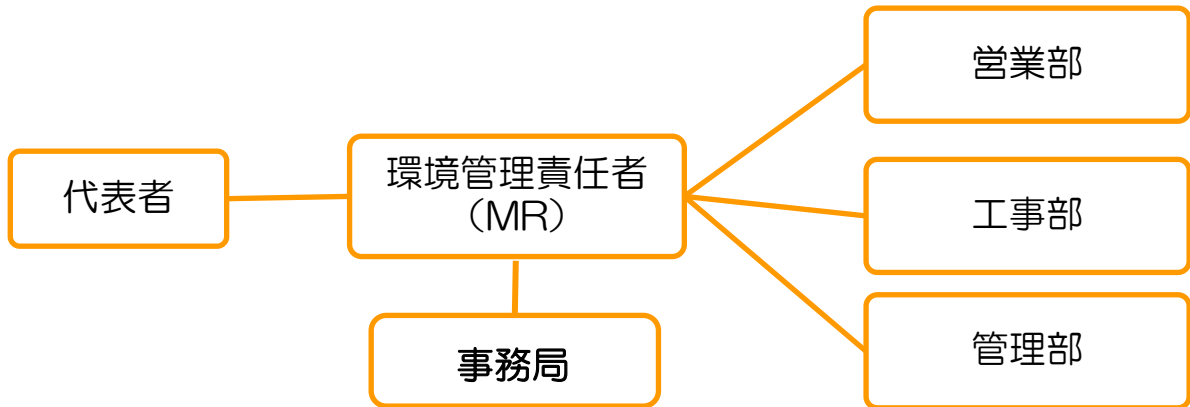
建装設備北海道株式会社 本社・現場事務所、会社倉庫

8. 環境活動の対象期間及び発行日

令和6年2月1日～令和7年1月31日

レポート発行日 令和7年7月1日

6. 組織図、実施体制



構成要素	役割、責任及び権限
代表者	<<代表取締役社長 佐々木克明>>会社を代表し、会社業務の全ての執行を統括する。 1. EA21環境マネジメントシステムの実施及び管理に不可欠な資源の提供、資原には、人的資源および専門的な技能、技術並びに資金を含む 2. 環境方針の作成 3. 環境管理責任者の任命 4. 課題とチャンスの明確化 5. 全体の評価と見直しの実施
環境管理責任者 (MR)	<<渡邊 哲也>> 1. EA21に従った環境マネジメントシステムの要求事項の確立、実施、維持 2. 代表者（社長）への実績報告を含む見直しのための報告 3. EA21環境マネジメントシステムの運用実施 4. 環境活動レポートの作成責任
事務局	<<長石 久子>> 1. 環境管理責任者のサポート 2. 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成 3. 文書・記録の管理
各担当責任者	1. EA21環境マネジメントシステムの運用実施 2. 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成

2. 環境方針

【基本理念】

建装設備北海道株式会社は世界規模で深刻化している環境問題を真摯に受け止め、建設業として事業を行うにあたり環境負荷を把握し、先進性のある技術を提供しながらも可能な限り積極的に環境保全に努め、“人と地球にもっと愛を”をキャッチフレーズに循環型社会を構築・貢献し、環境経営の継続的改善を誓約します

【環境保全行動指針】

- ①事業活動において関連する法律・条令などの法規制を遵守します
- ②地球温暖化を抑制する為に、二酸化炭素排出量削減を推進します
 - ・事務所・現場事務所において使用していない電気の消灯（昼休み時間帯は全て消灯）
 - ・エコドライブ・目的地の事前ルート確認による燃焼使用量の抑制
- ③産業廃棄物削減・限りある資源の有効活用を推進します
 - ・工事現場における産業廃棄物排出の際はリサイクルできるものと細分別化し軽減・資源の有効利用
 - ・白紙使用については事務所・現場事務所において印刷ミス軽減と裏紙利用
 - ・事務所における一般廃棄物は細分別化と削減
 - ・事務用品などのグリーン購入の推進
- ④環境負荷低減の為に水道使用量の削減を推進します
- ⑤環境配慮の施工・工事の推進をします
- ⑥当社環境方針を社員に周知徹底させ環境保全の意識を持たせる

令和5年7月1日



建装設備北海道株式会社
代表取締役社長 佐々木 克明

3-1. 環境目標

1. 二酸化炭素排出量

購入電気量	2024年度以降は前年度実績から3%削減を目標とする。 (現場での使用量は反映しない)
ガソリン・軽油・灯油使用量	2024年度以降は前年度実績から3%削減を目標とする。 (現場での使用量は反映しない)
二酸化炭素排出量	2024年度以降は前年度実績から3%削減を目標とする。

2. 水使用量（排出量）

2024年度（基準年）の数値より上がらないように目標設定。

3. 環境配慮（オプション工事）の施工・工事を全てのお客様に紹介する（100%）

※産業廃棄物排出量について

工事現場数によって増減が激しいため目標設定はしない
再資源化率の目標を50%とする

※化学物質については使用が無いので、目標設定はしない

※一般廃棄物排出量について

少量の排出の為目標設定はしない

3-2. 環境目標とその実績

(1) 二酸化炭素排出量の削減(69,770.42Kg - CO₂ : 2024年度)

電力使用量の削減 北海道電力 排出係数0.683 (kg-CO₂ / kWh)

項目	単位	R5.2~R6.1 (排出係数0.683kg-CO ₂ / kWh) (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
電気使用量 (本社・倉庫)	kWh	15,581	15,114	14,438	4%減
電気使用量 (現場事務所)	kWh	9,038	-	13,534	50%増

ガソリン使用量の削減

項目	単位	R5.2~R6.1 (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
ガソリン使用量 (本社)	L	11,281	11,517	10,092	9%減
ガソリン使用量 (現場)	L	591	-	565	4%減

軽油使用量の削減

項目	単位	R5.2~R6.1 (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
軽油使用量 (本社)	L	38	1,879	0	100%減
軽油使用量 (現場)	L	1,899	-	2,264	19%増

灯油使用量の削減

項目	単位	R5.2~R6.1 (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
灯油使用量 (本社・倉庫)	L	6,264	7,105	6,391	10%減
灯油使用量(現場)	L	1,060	-	1,680	58%増

二酸化炭素排出量（本社のみ）の削減

項目	単位	R5.2~R6.1 (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
二酸化炭素排出量 (本社のみ)	Kg- CO2	52,511	50,935	49,189	3%減

※参考まで：ソーラーパネル発電量

項目	単位	R5.2~R6.1 (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
電気発電量	kWh	7,420	-	7,900	6%増

(2)水使用量（排出量）

項目	単位	R5.2~R6.1 (前年度)	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値	評価
水使用量 (本社)	m ³	118	-	96	19%減

(3) 環境配慮（オプション工事）の施工・工事を全てのお客様に紹介する（100%）

マンション全体の改修工事の際に各お客様より工事依頼（オプション工事）を頂いた時には、環境配慮工事の提案を100%行うことができた。（節水になる設備の導入や、樹脂管を使用することなどの環境配慮）

（提案から、注文いただいた実績）

◇ロイヤルシャトー発寒（14階建 130戸）

オプション工事依頼お部屋数	110部屋から工事依頼
工事内容	浄水器撤去、洗面化粧台取替 浴室・台所水栓取替等

◇ラポールえるむの杜A棟（11階建 138戸）

オプション工事依頼お部屋数	62部屋から工事依頼
工事内容	洗面化粧台、台所水栓取替・CF張替等

◇ラポール学園通り（11階建 87戸）

オプション工事依頼お部屋数	51部屋から工事依頼
工事内容	ウォシュレット取替、UB取替 浴室・台所水栓取替

※産業廃棄物(建設副産物)

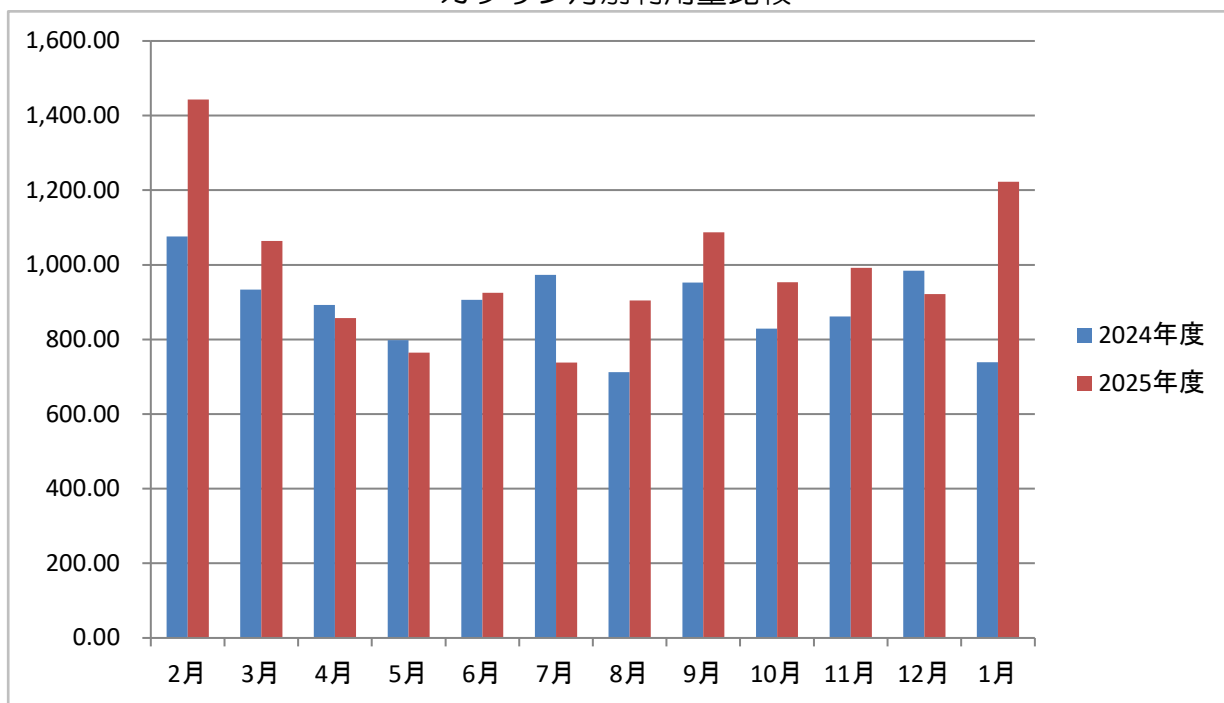
項目	単位	R5.2~R6.1 実績数値	削減目標	R6.2~R7.1 実績数値
廃プラスチック	K g	12,250	—	41,230
廃プラスチック (石綿含有專業廃棄物)	K g	350	—	745
建設混合(管理型)	K g	131,040	—	122,020
建設混合(安定型)	K g	—	—	—
がれき類	K g	7,400	—	20,720
アスコンがら	K g	—	—	—
コンクリートがら	K g	148	—	—
ガラス・陶磁器くず	K g	18,500	—	20,500
その他がれき類	K g	—	—	—
金属くず	K g	44,371	—	73,018
グラスウール	K g	4,000	—	—
紙	K g	450	—	4,560
廃石膏ボード	K g	10,350	—	15,340
廃石膏ボード (石綿含有專業廃棄物)	K g	—	—	—
木くず	K g	5,500	—	6,985
廃油	K g	—	—	180
無機汚泥	K g	—	—	—
有機汚泥	K g	—	—	—
油泥	K g	—	—	—
廃油(油水)	K g	—	—	—
合計	K g	234,359	—	305,298

4. 取組結果について（評価）

(1) 二酸化炭素排出量の削減

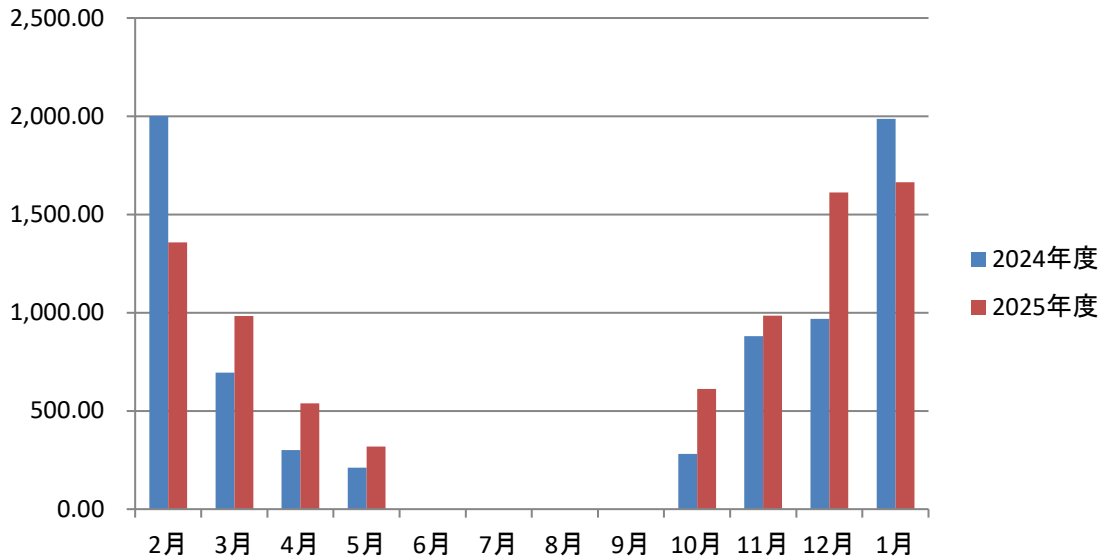
電気使用量 **目標値比較 4%減少（本社・倉庫）**
昨年よりやや減少、昼休みの消灯を意識した結果か。

ガソリン月別利用量比較



ガソリン使用量 **目標値比較 9%減少**
（本社のみ） アイドリングストップ等積極的な使用量削減の為。
軽油使用量 **前年度比較 本社：100%減少 現場：19%増加**
（本社・現場） 売上増加に伴う現場数の増加により19%増加。

灯油 月別使用量比較



灯油使用量・・・目標値比較 本社：10%減少 現場：58%増加
本社：昨年と大差なし。
現場：冬の現場の数が昨年より増加したため。

二酸化炭素排出量（本社のみ）の削減

昨年より3%の減少となった。要因として、昨年同様現場が近郊であることと乗合をしていることがガソリンの削減となったこと。

(2) 水使用量(排出量)の削減

昨年より水道使用量が19%減少
昨年度に比べ、本社にいる人数が減った為。

(3) 産業廃棄物(建設副産物)の削減

工事現場数によって増減が激しいため目標設定はしていない。
再資源化率について目標を50%としているが、今回は2%届かなかった。

(4) 一般廃棄物の削減

毎月一定量のごみ排出、分別を徹底していく。

(5) 環境配慮（オプション工事）の施工・工事を全てのお客様に紹介する（100%）

環境配慮工事の提案を100%行うことができた。

(4) 環境活動計画の個別評価

A.非常によくできた B.よくできた C.昨年と変わらず D.あまりできなかった E.ほとんどできなかった

取り組み項目	活動内容	取組結果	見直し (次年度の取組)
消費電力の削減	昼休みの不要な照明は消灯	A	継続指導
	パソコン・プリンター等未使用時は電源オフの徹底	A	
	暖房の設定温度を下げる	A	
	夏は窓を開け冷房を極力使わない	C	
	冷房使用時は設定温度を上げる	D	
ガソリン・軽油の削減	アイドリングストップの実施	A	
	急発進・急加速・急停止の禁止	A	
	タイヤの空気圧等車輛整備を行う	A	
	法定速度の遵守	A	
	現場通勤ルートの確認	A	
	車両冷暖房の控えめ使用	D	
	エコドライブの徹底	A	
灯油使用量の削減	設定温度を低くする	A	
	ウォームビズに取組む	B	
水道使用量の削減	節水を心がける	A	
	水道配管から漏洩していないか定期的にチェック	B	
産業廃棄物の排出量の削減	金属・電線類の分別回収	B	
	資源ごみの分別、適正処理	B	
	産業廃棄物の分別徹底による減量化	B	
	施工ミスをしない	A	
一般廃棄物の削減	印刷ミスを少なくする	B	
	社内資料は裏紙を使用	A	
	ビン・カン・ペットボトルは各自分で持ち帰る	B	
地域環境活動	白石公園清掃	A	
	ペットボトルキャップの回収活動	A	
	白石こころーど清掃	A	↓

取り組み項目	活動内容	取組結果	見直し (次年度の取組)
環境配慮工事	環境に配慮した施工	A	継続指導
	新エネルギー工事の提案	-	
	省エネルギー工事の提案	A	
	お客様への環境配慮型商品の提案	A	↓

5. 地域環境活動

①白石公園清掃活動（月1回）

会社事務所に在籍している人員3~6人程度で月に一回行った。

①白石公園清掃活動



②テプラ回収



③現場産廃回収



④現場事務所



⑤ペットボトルキャップの回収



⑨エコドライブの推進



⑩さっぽろエコメンバー登録（レベル3）

登録番号 083-0016

6. 今後3年間の削減目標

本社

項目	単位	2024年 (基準年)	2025年	2026年	2027年
購入電力量	KWh	14,438	14,004	13,584	13,177
ガソリン使用量	L	10,657	10,337	10,027	9,726
軽油使用量	L	2,264	2,196	2,130	2,066
灯油使用量	L	8,071	7,828	7,594	7,366
二酸化炭素排出量 (本社のみ)	Kg-CO2	49,189	47,713	46,281	44,893
水使用量(排出量)	m ³	96	96	96	96
環境配慮工事	%	100	100	100	100

※1 基準年の実数より1年ごとに97%を乗算した数値を目標とする

※2 目標の見直しは毎年行うものとする

※3 水使用量については基準年より上がらないように目標設定

※4 一般廃棄物、産業廃棄物については現場数により変動が激しいため目標設定は無しとするが、産業廃棄物については再資源化率を50%と目標設定する。

購入電気量	電気使用量が1%減少したが、2024年度以降は3%削減を目指していく。
ガソリン・軽油・灯油使用量	2024年度の基準年より3%削減 (現場での使用量は反映しない)
二酸化炭素排出量	購入電気量を3%削減を目標としたので、3%削減を目標数値としていく。
水使用料(排出量)	2024年度の基準年より上がらない目標設定。
一般廃棄物排出量	毎月一定量のごみ排出、分別を徹底していく。
産業廃棄物排出量	目標数値を設定するのが難しいため、分別等を徹底する。 しかし、再資源化率だけは50%と目標を設定する。
環境配慮製品の提案	100%行っていく

7. 環境関連法規等遵守状況

主に、

- 大気汚染防止法
- 廃棄物処理法
- 建設リサイクル法
- フロン排出抑制法
- 家電リサイクル法 etc.

上記、環境関連法規への違反はありません。

また、関係機関等からの指摘及び訴訟等もありません。

8. 代表者による見直しと指示

• 目標に対し、本社の灯油使用量が未達成で、それ以外が目標達成。この調子で来年も目標達成出来る様に取り組むこと。

• 昨年同様となるが令和4年12月からゼロカーボンチャレンジャーを宣誓し、更なる二酸化炭素の排出量を減らすための取組が求められる。現状に満足せず、新しい取り組みも考案し、実施していき結果に繋げること。

• 「環境方針」「環境経営目標及び環境経営計画」「実施体制」については見直しをかけたが、特に変更点はない。しかし、今後変更すべきと判断した場合は速やかに変更すること。